



千葉県キャリア教育の基本方針

未来を拓くキャリア教育



令和6年3月

千葉県

目次

I 総論	1
1 基本方針の趣旨	1
2 本市の子どもたち	3
3 本市のキャリア教育の目標	9
4 本市のキャリア教育の方向性	10
5 本市のキャリア教育を支える環境 「縦と横の連携図」	11
6 本市のキャリア教育の進め方 「児童生徒の成長目線図」	13
II 各論	14
1 本市のキャリア教育の進め方のポイント 「学校内での推進体制目線図」	14
2 発達段階ごとのキャリア教育	18
III 参考資料	21
1 キャリア教育とは	21
2 キャリア教育の位置付け	23
3 これからの社会	24
4 これまでの本市のキャリア教育	25
5 キャリア教育に関する研修や教材、取組等の補足	26

* 「未来を拓く」とは・・・

将来の予測が困難な状況の中、子どもたちが将来の夢や目標、希望に向けて、主体性を持って様々な課題に取り組んでいくことです。子どもたちが自分らしい生き方を実現するために必要な能力・態度を育むキャリア教育は、次代を切り拓く、未来につながる学びでもあります。

I 総論

1 基本方針の趣旨

(1) キャリア教育を改めて考える

「キャリア教育」と聞いて、どのようなことを思い浮かべますか。

- ・職場体験などを通して仕事や働くことについて学ぶこと
- ・キャリア教育よりも学力向上の方が大事ではないか
- ・キャリア教育も必要だが、本校は生徒指導などが優先である
- ・キャリア教育とは何をすればよいのかわからない など

そもそも学校などで学ぶことの意義とは何でしょうか。

何で勉強をしなくちゃいけないの？



・様々な力を身に付けるため
・将来、なりたい自分になるため
・将来、なりたい姿を見つけるため
・視野や価値観を広げるため など



キャリア教育とは、

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育*」です。

この「キャリア発達」とは、

「社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程*」とされています。

つまり、キャリア教育は、単に仕事や働くことについて勉強する、というだけではなく、子どもたちが自分らしい生き方を実現するために必要な能力・態度を育む教育であり、学校教育活動と一体であると言えます。

学習指導要領において、キャリア教育は「特別活動を要として、学校教育全体を通して行うもの」と示されており、これまでの教育実践をキャリア教育の視点を持って改善していくことが必要です。

特別活動の「学級活動」が学校教育全体を通して行うキャリア教育の「要」となります。



要(とりわけ学級活動(3))

図の出典：文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」(令和4年3月)

(2) 本市のキャリア教育

「予測困難な時代」(例えば、価値観や社会構造の変化、AIなどにより新しく生まれる職業の増加など)「人生100年時代」(例えば、複線型の働き方はじめ人生のステージの多様化など)と言われる中、生き方に関する教育や学びは一層重要となっています。

2019年にOECD(経済協力開発機構)から公表された「ラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030」では、子どもたちが「ウェルビーイング^{*3}」を実現していくために自ら主体的に目標を設定し、振り返りながら、責任ある行動がとれる力を身に付けることの重要性が指摘されています。国においても2040年以降の社会を見据えた教育政策の総括的な基本方針として「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」が掲げられました。^{*4}その要素としては、「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現(達成感、キャリア意識など)」などが挙げられます。

これらは自分らしい生き方を実現していくキャリア教育とつながりが深いものであり、キャリア教育を通して自分らしい生き方を実現する力や態度を育み、それがウェルビーイングの向上につながっていくと考えられます。

本市には、都市と豊かな自然が共存し、様々な企業や学校を取り巻く地域の人々などが存在します。こうした地域の多様な人々は本市の資産であり、このような人々との「関わり」を生かしていくとともに、各学校では、「キャリア教育グランドデザイン」を作成し、それを基盤として、「キャリア・パスポート」を中心にキャリア教育を進めてきています。

キャリア教育を進める際、子どもたちが豊かな生き方を実現していくために、個別または協働的に課題を解決したり、考えを共有したりするなど、様々な場面でICTを効果的に活用していくことが大切です。

この千葉県キャリア教育基本方針「未来を拓くキャリア教育」は、子どもたちの未来を見据え、子ども、教職員、地域、家庭、企業等がともに手を携えながら、主体的にキャリア教育に関わっていくことを目指すものです。



キャリア教育を通して育む「基礎的・汎用的能力」^{*5}を構成する4つの能力は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」です。詳しくはp.21をご覧ください。

千葉県では、各学校におけるキャリア教育の「全体計画」のことを、「キャリア教育グランドデザイン」と呼称しています。「キャリア教育グランドデザイン」についてはp.15、「キャリア・パスポート」についてはp.16をご覧ください。

*1、2 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

*3 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むもの(出典:「教育振興基本計画」(令和5年6月閣議決定))

*4 OECD「ラーニング・コンパス(学びの羅針盤)2030」(令和元年5月)、「教育振興基本計画」(令和5年6月閣議決定)

*5 社会的・職業的自立、学校から社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素としては、「基礎的・基本的な知識・技能」「基礎的・汎用的能力」「論理的思考力、創造力」「意欲・態度及び価値観」「専門的な知識・技能」が挙げられます。(出典:「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」)

2 本市の子どもたち

本市の子どもたちの現状

【I 自己肯定感や将来の夢や目標などに関する調査結果より】

全国学力・学習状況調査において、キャリア教育と関連がある項目から本市の子どもたちの現状を見ると、以下のとおりです。

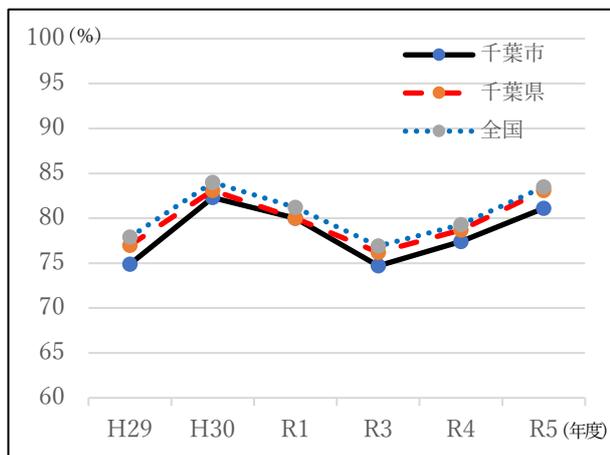
【課題】

- ・本市児童生徒は、全国平均と比較すると、自己肯定感やチャレンジする姿勢に課題が見られる。
- ・夢や目標を持っている児童生徒は多いとは言えない。
(※この点については、キャリア教育推進連携会議などでは、「本市の児童生徒は現実を見ている」、「調査の『夢』という語句にハードルを感じるのではないか」といった意見もあった。)
- ・「人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒に比べ、「地域や社会をよくするため何をすべきかを考えることがある」(※R5:「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」)と答えた児童生徒は、全国平均と比較すると、少ない。

質問①：自分には、よいところがあると思いますか。

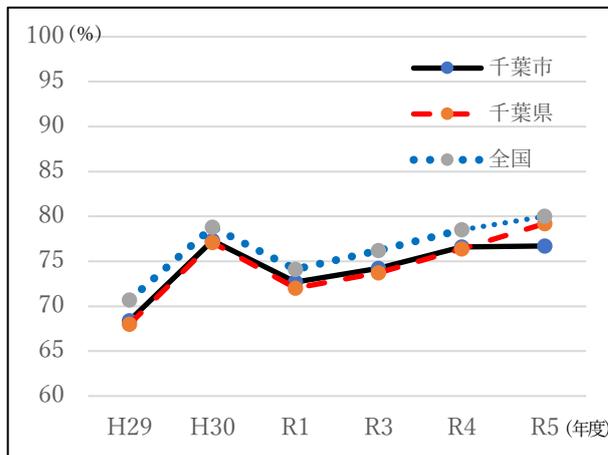
- ・小・中学生ともに全国平均と比較すると、自己肯定感が低い。

【小学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	74.9	82.3	80	74.7	77.4	81.1
千葉県	77	83.1	80	76.2	78.7	83.1
全国	77.9	84	81.2	76.9	79.3	83.5

【中学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	68.4	77.3	72.7	74.2	76.6	76.7
千葉県	68	77.1	72	73.7	76.4	79.2
全国	70.7	78.8	74.1	76.2	78.5	80

※令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症の影響により未実施

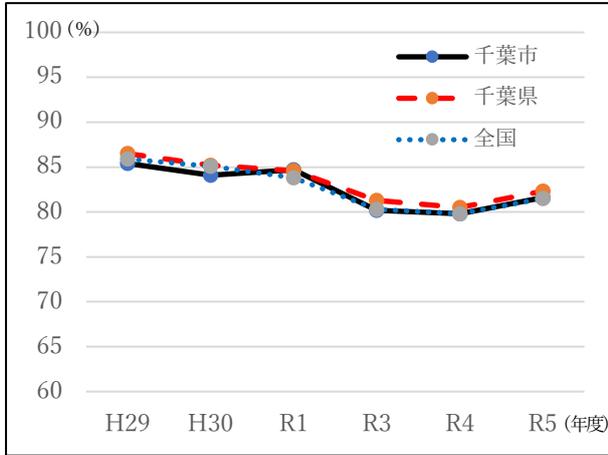
※データは肯定的回答の割合

(出典：文部科学省「全国学力・学習状況調査 調査結果資料」)

質問②：将来の夢や目標を持っていますか。

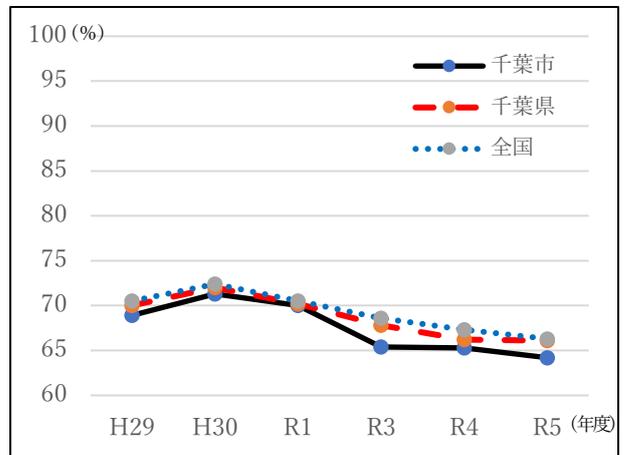
・中学生は全国平均や県平均と比較すると、低い。小学生は全国、県ともに平均並みである。

【小学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	85.4	84.1	84.7	80.2	79.8	81.6
千葉県	86.5	85.2	84.6	81.3	80.5	82.3
全国	85.9	85.1	83.8	80.3	79.8	81.5

【中学生】

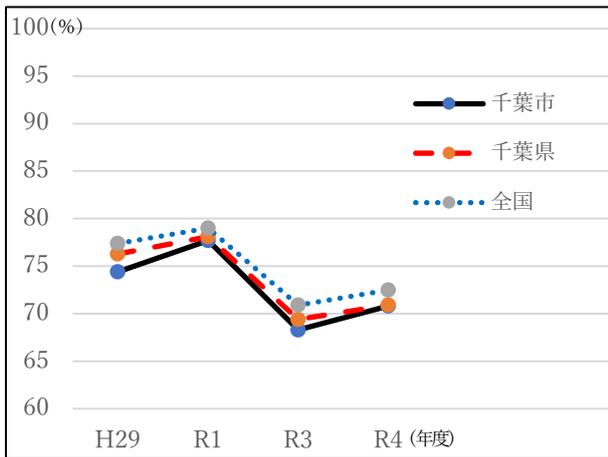


	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	68.9	71.3	70	65.4	65.3	64.2
千葉県	70	72	70.2	67.8	66.2	66.1
全国	70.5	72.4	70.5	68.6	67.3	66.3

質問③：難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。

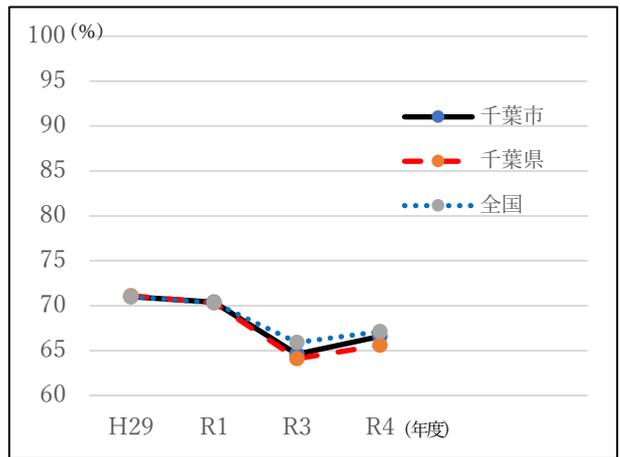
・小学生は全国平均や県平均と比較すると、低い。中学生は全国、県ともに平均並みである。

【小学生】



	H29	R1	R3	R4
千葉市	74.4	77.7	68.3	70.8
千葉県	76.3	78.1	69.4	70.9
全国	77.4	79	70.9	72.5

【中学生】



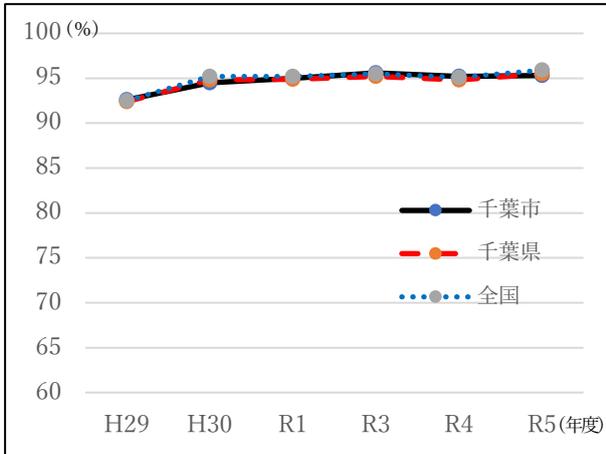
	H29	R1	R3	R4
千葉市	71	70.4	64.6	66.6
千葉県	71.1	70.3	64.1	65.6
全国	71	70.3	65.9	67.1

※H30、R5 は質問項目なし

質問④：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

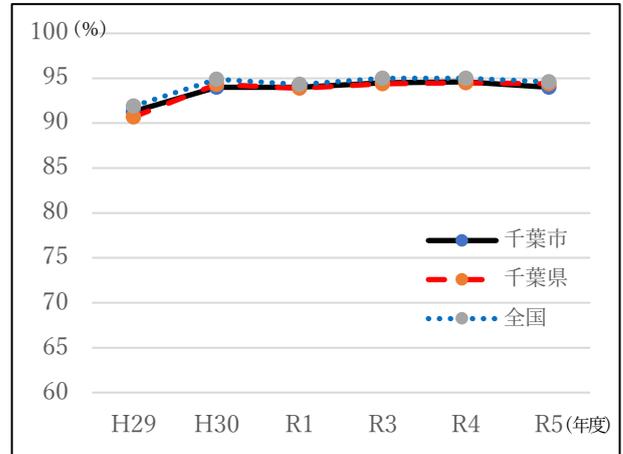
・9割以上の小・中学生が誰かの役に立ちたいという思いを持っている。

【小学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	92.6	94.5	95	95.6	95.2	95.3
千葉県	92.4	94.8	94.9	95.2	94.8	95.5
全国	92.5	95.2	95.2	95.5	95.1	95.9

【中学生】



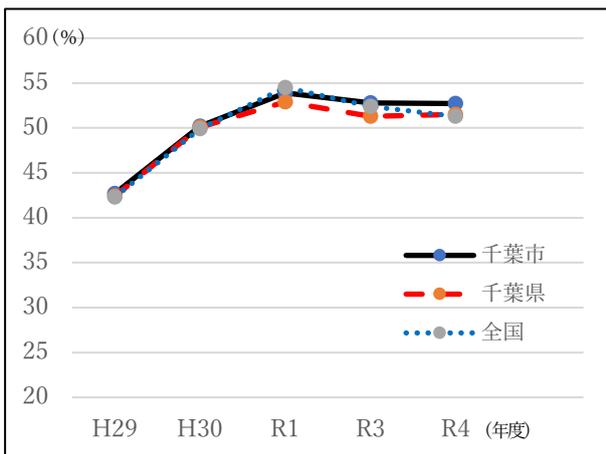
	H29	H30	R1	R3	R4	R5
千葉市	91.3	94	94	94.5	94.6	94
千葉県	90.7	94.3	93.9	94.4	94.5	94.4
全国	91.9	94.9	94.3	95	95	94.6

質問⑤：地域や社会をよくするため何をすべきかを考えることがありますか。

(※R5：「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」)

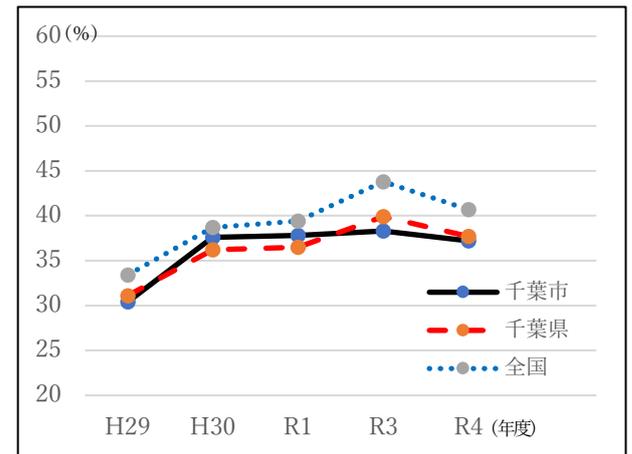
・中学生は全国平均と比較すると、低い。小学生は全国、県ともに平均並みである。

【小学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	※R5
千葉市	42.7	50.2	53.9	52.8	52.7	77.4
千葉県	42.4	50.1	52.9	51.3	51.5	75.6
全国	42.3	49.9	54.5	52.4	51.3	76.8

【中学生】



	H29	H30	R1	R3	R4	※R5
千葉市	30.4	37.6	37.8	38.3	37.2	62
千葉県	31.1	36.2	36.5	39.9	37.7	62.8
全国	33.4	38.7	39.4	43.8	40.7	63.9

【Ⅱ 主体的・対話的で深い学び(個別最適な学びと協働的な学び)などに関する調査結果より】

全国学力・学習状況調査（令和5年度）のうち、子どもたちの主体的・対話的で深い学びに関連する調査項目においても、全国平均と比較して、本市では肯定的な回答が低い傾向が見られます。（ただし小学生の総合的な学習の時間に関する項目は高い）

【小学生】

質問事項	肯定的な回答をした割合（％）		
	千葉市	千葉県	全国
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	63.3	65.7	68.5
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	79.9	81.1	82.9
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	74.0	75.7	77.4
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	75.3	76.0	77.2
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	80.5	76.3	74.8

【中学生】

質問事項	肯定的な回答をした割合（％）		
	千葉市	千葉県	全国
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	63.6	64.0	66.4
1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	71.4	71.9	74.9
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	66.6	66.3	69.2
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	77.0	78.5	77.9
総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	67.0	68.4	72.6

【Ⅲ 子どもたちの実際の声（自己肯定感、将来の夢や目標などについて）】

教育委員会において、子どもたちから意見を聞いたところ、以下のような傾向も見られました。

①アンケート調査より

（令和5年10月 対象：本市小学5・6年生179名、中学2年生183名）

- ・単に「夢や目標を持っていますか」と聞くのではなく、『「こんな人になりたい・こんなことをしたい』を含めて夢や目標、希望を持っていますか」と聞くと、ほとんどの児童生徒が肯定的な回答をした。（小…95%、中…93%）
- ・「学ぶことが将来につながる」「自分にとってプラスになる」と考えている児童生徒は多い。（小…99%、中…95%）
- ・「どのような時に達成感や充実感、成長を感じたり、自分に自信を持ったりしますか」という質問に対し、小・中学生ともに「できなかったことができるようになったとき」が一番多い。また、小学生は「大人にほめられたとき」が多いが、中学生は大人より「友達に認められたとき」の方が多い。

②子どもたちとの対話より

（令和5年11月、12月 対象：本市小学6年生15名、中学1・2年生7名）

- ・「将来の夢を持ったきっかけは何か」という質問に対しては、「趣味や好きなこと・得意なことを生かしたい」や、「家族が働いている姿にあこがれた」という意見があった。
- ・「将来の夢や目標、希望は必要か」という質問に対して、「なくてもよい」という答えもあったが、持っていた方が「人生が楽しくなる」「モチベーションにつながる」「生きがいになる」といった意見があった。
- ・自己肯定感に関する質問では、「自分にはよいところがある」に手を挙げる児童生徒は多くいたが、「今の自分が好き」は少なく、「自分自身に満足している」はほとんどいなかった。^{*6}
- ・「学校の中で達成感や充実感、成長を感じたり、自信を高めたりするために必要なことは何か」という質問に対して、「どの子も認められる（例えば表彰される）機会を増やす」「成功体験があるとよい」「友達関係が大切」といった意見があった。
- ・先生に対しては、「先生の存在は大きい」や「もっとほめてほしい」「ほめられるだけでなく、アドバイスなど今後につながることを教えてもらえると嬉しい」などの意見があった。

*6 自己肯定感に関する指標

「自分にはよいところがある」……全国学力・学習状況調査（文部科学省）の調査項目

「今の自分が好きだ」……平成26年度青少年の体験活動等に関する実態調査

（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の調査項目

「自分自身に満足している」……平成25年度我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（内閣府）の調査項目

本市の実態を踏まえ、 これからのキャリア教育に向けてまず大切にしたいこと

① これまでも大事にしてきたことの確認



各教科等の学習や学校生活の中で、「わかった」「できた」が実感できるような活動を意図的に仕組み、児童生徒一人ひとりの成長を、教職員が積極的に褒めたり認めたりすることが必要です。また、日常的に友達同士でよいところを認め合う場をつくっていきましょう（p.17 参照）。児童生徒が短期、中期、長期の目標を立て、目標を意識して様々な学習や活動を進めていくとともに、目標を振り返り、次の学習や活動の意欲へとつなげていくことも大切です。



② 授業での主体的な学びの促進



自己肯定感と主体性は、相互に関連することが指摘されています。^{*6}

普段の授業の中で、児童生徒が自ら考え、見通しを持って粘り強く取り組み、失敗をしながらも成功体験を積み重ねたり、学習活動を振り返って次につなげたりする「主体的な学び」を促していく必要があります。



③ 個別最適な学びと協働的な学び、ICTの活用



1人1台端末タブレットPC（ギガタブ）などを活用しながら、誰一人取り残すことなく育成する「個別最適な学び」と、多様な個性を最大限に生かす「協働的な学び」の一体的な充実を図ることで、より主体的な学びの促進につながります。

<留意点>

なお、本市の各学校は、地域性や学校規模などが多様であり、前ページの調査結果などで述べたような全体的な傾向がどの学校にも当てはまるとは限りません。調査結果の指標などを参考に自校の状況について把握・分析し、各学校におけるキャリア教育の目標や身に付けるべき力の設定が必要です。

*6 教育再生実行会議「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育む教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上（第十次提言）」（平成29年6月）

3 本市のキャリア教育の目標

「一人ひとりが自分のよさや可能性に気づき、
夢や目標、希望に向けて、主体的に行動できる児童生徒の育成」

第3次千葉市学校教育推進計画では、目指すべき子どもの姿を「夢と思いやりの心を持ち、未来を拓く子ども」としています。予測困難な時代、人生100年時代と言われる中、一人ひとりに、その時に応じた様々な生き方や新しい職業などがあることが考えられます。また、児童生徒それぞれの多様性を踏まえる必要があり、将来の「夢」を、職業選択の意味に限らず、「自分が将来なりたい姿・したいこと」と捉えます。そのような夢や目標、希望に向けて、未来を切り拓いていくことが大切です。

しかし「本市の子どもたちの現状」(p.3)によると、本市児童生徒は、自己肯定感やチャレンジする姿勢に課題があると言えます。また、「社会に貢献したい」という思いはあるものの、そのための方法や手段がわからない児童生徒が多いことも課題です。

これらを踏まえ、自分のよさや可能性に気づき、自信を持って生活できる児童生徒を育成していくことが必要です。

社会の中には様々な役割があり、多くの人々がその役割を担うことで社会をつくり上げていることや、自らの役割を果たすことで達成感や充実感が得られることなどを児童生徒が実感できるようにしていきます。

各学校においては、日頃の学校生活の中で、主体的な学びを進め、児童生徒の取組を認めていきます。また、キャリア・パスポートを活用することで、児童生徒が自己理解を深め、自分のよさや可能性を知ったり、自らの生き方について前向きに考えたりできるようにします。そのような中で、児童生徒は自己肯定感を高めていきます。自己肯定感を土台として、多様な人々や社会と関わることで、様々な生き方やその社会での役割を知り、視野を広げていきます。そうした一連の過程を通して、夢や目標、希望に向けて、主体的に行動する姿勢や力を育成していきます。

【参考】千葉市の教育に関する大綱（令和4年度～令和7年度）

○キャリア教育の充実

- ・子どもたち一人ひとりが夢や目標を持ち、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を身に付けることができるよう、職業体験学習（p.27 参照）や進路指導体制の充実、起業家教育など、産学官が連携して小中学校におけるキャリア教育を推進し、本市を支える人材の育成にもつなげていきます。



4 本市のキャリア教育の方向性

(1) 各学校全体でのキャリア教育の推進

各学校における教育課程は、校長のリーダーシップのもと、全教職員が協力して編成していきます。キャリア教育も一つの教科等で完結するものでなく、児童生徒が行う全ての学習活動などと密接に関わるため、学校の教育活動全体を通して推進していきます。

そのため、各学校では校長の方針に基づき、キャリア教育の目標が達成できるように、全教職員が協力してキャリア教育グランドデザインを作成し、円滑に実践していくための校内推進体制を整える必要があります（p.14の図参照）。

(2) 小・中・高各段階の「縦」の連携の推進

キャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、児童生徒の発達段階や発達課題（p.18～20参照）の達成と深く関わりながら段階を追って発達していくものです。

児童生徒一人ひとりのキャリア形成の過程を継続的に捉えるため、これまでの学びや成長を積み重ねたポートフォリオ（キャリア・パスポート）の作成や活用、小・中・高の連携が必要です。このような学校種間の連携を「縦」の連携と捉え、推進していきます（p.11の図参照）。

(3) 地域・家庭・企業等との「横」の連携の推進

キャリア教育を実践する中で、学校生活と社会生活や職業生活を関連付け、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通すことにより、児童生徒は学ぶ意義を理解し、学習意欲の向上につながります。

つまり一人ひとりのキャリア発達を促進するためには、学校だけでなく外部（家庭、地域、企業等）からの組織的・体系的な働きかけが不可欠であるといえます。このような外部との連携を「横」の連携と捉え、推進していきます（p.11の図参照）。

(4) 教職員の理解・指導力向上のための取組の充実

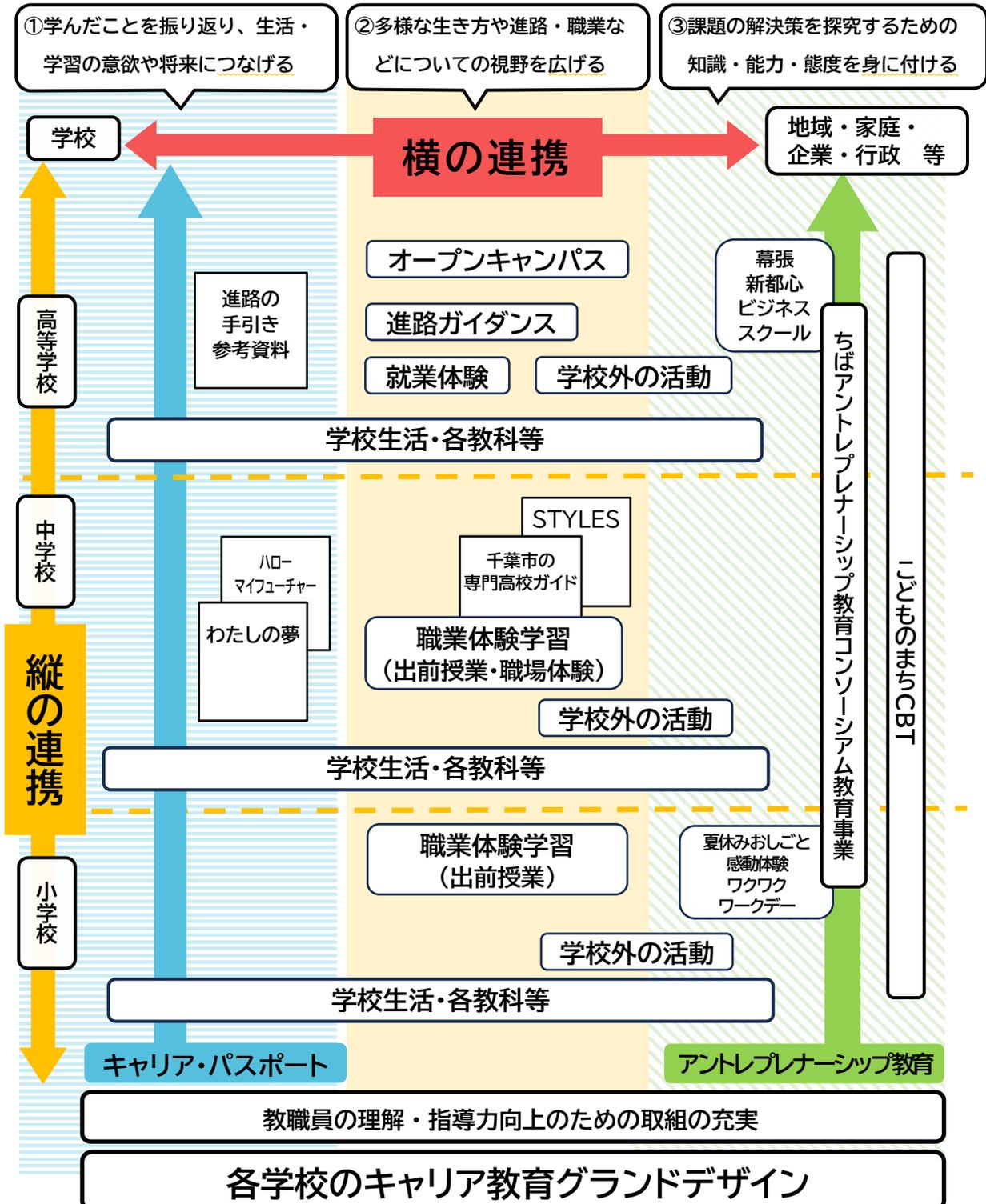
キャリア教育を充実させ、その目標を達成するポイントは、教職員のキャリア教育に対する理解や、授業での指導力です。キャリア教育に係る研修などを充実させることで、校内で中心となりキャリア教育を推進する教職員の育成や教職員全体の理解・指導力向上を図っていきます。

* 特別支援学校（知的障害）においては、それぞれの児童生徒の実態にあわせ、自立および就労（社会参加）を目指した指導・支援を中心にキャリア教育を進めています。（本市の特別支援教育のあり方については、第2次千葉市特別支援教育推進基本計画を参照してください。）

5 本市のキャリア教育を支える環境 「縦と横の連携図」

本市で取り組んでいる主なキャリア教育を整理すると、下の図のようになります。
縦と横のつながりを意識し各学校におけるキャリア教育をさらに充実していきましょう。

夢や目標、希望に向けて、主体的に行動できる児童生徒



本市の取組		ねらい
キャリア教育 グランドデザイン		各校の実態に応じて身に付けさせたい力を明確にして作成し、全教職員で共有することで、見通しを持ちキャリア教育を推進することができる。
① つなげる	キャリア・パスポート	子どもたちが自らの成長を振り返り、自分のよさや可能性に気付くことで、主体的に学びに向かう力を育み、夢や目標、希望に向かい、自己実現につなぐことができる。 教員にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって児童生徒の成長を促し、系統的な指導・支援をすることができる。
	わたしの夢	主に特別活動「学級活動（２）（３）」の時間に活用することで、自分のよさや可能性に気付くとともに、学ぶ意味や自分らしい生き方について考えることができる。
	ハローマイフューチャー	主に特別活動「学級活動（２）（３）」の時間に活用することで、自らを振り返ったり、情報を整理したりしながら、自分のよさや可能性、自分らしい生き方から自分に合った進路選択ができる。
	進路の手引き 参考資料	進路選択に必要な基本情報を理解し、進路選択をすることができる。また、合格体験記などを自らの進路活動に活かすことができる。
② 広げる	職業体験学習 (出前授業)	学習することや働くことの意味に気付いたり、生き方の幅や考え方を広げたりできる。
	職業体験学習 (職場体験)	そこで働く方々の生き方や仕事への思いなどに直接触れる体験を通して、職業観を始め、自らの生き方について考えたり、社会へ貢献していこうとする態度を身に付けたりする。
	千葉市の専門高校 ガイド	本市内にある３つの専門高校の情報に触れることで、進路選択の幅を広げる。
	STYLES (冊子・動画)	生徒が技術・技能職への理解を深めたり、興味、関心を持ったりするとともに、進路選択の方法や幅を広げる (p. 27 参照)。
	進路ガイダンス	専門家や大学・短大、専門学校などの担当者から、将来の進路選択に必要な情報を収集することができる。
	オープンキャンパス	進学を希望する大学・短大や専門学校に実際に行くことで、パンフレットや web だけではわからない学校の特徴や雰囲気を感じることができる。
③ 身に付ける	就業体験	将来就きたい業界、企業、職種の人々と接することにより、実際的な知識や技術に触れ、学ぶことの意味や働くことの意味を理解し、主体的に進路を選択決定する態度や意欲を培う。
	ちばアントレプレナーシップ 教育コンソーシアム Seedlings of Chiba	産学官連携により提供される起業体験講座や課題解決プログラムを通して、激しく変化する社会の動きに柔軟に対応する能力、自らの力で仕事を創り出すうえで必要な能力が育つ。
	夏休みおしごと感動体験 ワクワクワークデー	興味ある事柄の発見につながったり、働くことの意味や将来について考えるきっかけとなったりする。
	幕張新都心ビジネス スクール	身の回りの身近な課題解決に向け、先端技術を用いた解決法を高校段階の生徒が考えることにより、進路選択の一つとして起業家の視点を持つことができる。
こどものまち C B T	お店や会社で働くことや市長選挙などの疑似社会体験における、協働作業や協議による課題解決を通して、社会に主体的に参加していく姿勢を身に付ける。 詳しくはこちらから(こども企画課HP)	

- ① 学んだことを振り返り、生活・学習の意欲や将来につなげる
- ② 多様な生き方や進路・職業などについての視野を広げる
- ③ 課題の解決策を探究するための知識・能力・態度を身に付ける

6 本市のキャリア教育の進め方 「児童生徒の成長目線図」

ここでは、各学校種段階での、キャリア教育に関連した活動を図で示しています。こうした学校内外における様々な活動を通して経験を積み重ね、「キャリア・パスポート」に記録し、振り返りながら、夢や目標、希望に向けて主体的に行動できる児童生徒の育成を図ります。

小学校

中学校

高等学校

社会人

職業体験学習（出前授業・職場体験）

進路講演会

地域の様々な人材活用（保護者、地域人材）

地域探究学習

- ・教科学習の講師や補助員
- ・地域への校外学習、
- ・学校行事への積極的な協力 など

地域の様々な人と直接触れ合う体験を通して、多様な生き方や進路・職業などについての視野を広げることが期待できます。また、「学ぶ」意義についての理解を深めることができます。

夢や目標、
希望に向けて、
主体的に行動
できる児童生徒

キャリア・パスポートの充実

特別活動の学習「学級活動（3）」の話し活動を通して、自分のよさや頑張りについて付けるようにします。
活動の振り返りを資料として話し合い、「キャリア・パスポート」にまとめます。



わたしの夢

ハローマイ
フューチャー

進路の手引き
参考資料

児童会活動

生徒会活動

自治活動

クラブ活動

部活動

サークル活動、同好会など

係、当番活動

教科学習 & 学校行事

教育活動全体で、縦と横の連携を意識し、「キャリア・パスポート」の充実を目指すことが第一歩です。

II 各論

1 本市のキャリア教育の進め方のポイント 「学校内での推進体制目線図」

夢や目標、希望に向けて、
主体的に行動できる児童生徒

各学校においては、「グラウンドデザイン」を基盤とし、「キャリア・パスポート」を中心にキャリア教育を進めていきます。
「キャリア・パスポート」につながる活動の内容は、各学校が実態に応じて計画的に定めます。



縦と横の連携を支えるもの

○キャリア教育グランドデザイン

各学校では校長の学校経営方針に基づき、キャリア教育の目標が達成できるように、全教職員が協力してキャリア教育グランドデザインを作成し、円滑に実践していく校内推進体制を整える必要があります。

4つの基礎的・汎用的能力（人間関係・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）は、均一・均等な能力設定にする必要はありません。各学校の実態に応じて、重点を設定することが大切です。また、各学校の児童生徒の実態や発達段階を踏まえ、4つの基礎的・汎用的能力を具体的な力として各学校で設定します（千葉県教育センター「キャリア教育ガイドブック」（2018）を参照）。

児童生徒の自己肯定感を高めるには、教職員が児童生徒一人ひとりのよさを認め、価値付けることが必要です。学校として設定した力がはっきりと具体的な言葉になっていれば、教職員全体で褒めポイントを共有することができ、児童生徒も自己理解を深めることができます。



<キャリア教育グランドデザイン作成のポイント>

- ① 日常の様子などを分析するとともに、児童生徒と保護者へのアンケートを実施するなどして、学年ごとの児童生徒の実態を把握し、育成すべき資質・能力について検討する。
- ② 学校評議員や地域の方などの意見を聞き、学校の課題や学校教育に対する地域の思いや願いを把握する。
- ③ 近隣校（中学校区）における目標や実態を確認し、自校の到達目標を設定する。
- ④ 各学年の児童生徒の実態を踏まえ、各学年、または近接学年（低学年・中学年・高学年）の目標を設定する。
- ⑤ 各教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、学級の実践などでのそれぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る。
- ⑥ 家庭・地域、学校間の連携を考慮する。

○教職員の理解・指導力向上のための取組の充実

キャリア教育は、児童生徒の多様な学習状況に対応できるようにするため、教職員がチームを組んで互いによさを発揮して指導に当たることが必要となります。

各学校においては、年間研修計画にキャリア教育を位置付け、共通理解、実践、振り返りを行うことが大切です。特に、目指すべき姿や身に付けさせたい力などについて、共通理解を図ることが重要になります。教職員全体の理解・指導力を向上させていくために、校内研修や校外研修、学年会、打合せなどを活用すると効果的です。

<校内で共通理解したいこと>

- ・発達段階や実態に応じたキャリア教育で目指すべき姿や身に付けさせたい力
- ・自校のキャリア教育グランドデザインやキャリア・パスポートの内容
- ・キャリア教育の視点を取り入れた教育課程、指導計画の見直し（教材研究）
- ・児童生徒の多面的な見取り方
- ・自己肯定感を高める声掛け など

縦の連携



○キャリア・パスポートの活用

「キャリア・パスポート」を活用した学習は、学年初め、前期の終わり、学年終わりと年間で3回から5回程度、学級活動(3)・ホームルーム活動(3)の時間に行います。一単位時間を用いて、児童生徒がそれまでの活動を振り返り、新たな目標や修正した目標を自己決定します。その際、「自分や友達の頑張ったことについて交流し、自らのよさに気付くこと。」「友達の意見を参考にしながらこれからの目標を意思決定すること。」ができるように留意します(p.17 指導事例参照)。

作成した「キャリア・パスポート」をポートフォリオとして蓄積することで、児童生徒は自分の成長に気付くとともに、そのポートフォリオは、夢や目標、希望に向かうために自らを励まし、後押しするものとなります。また、教職員も一人ひとりのこれまでの成長を見取ることで、より深い児童生徒理解につながり、質の高いキャリア・カウンセリングを実現できます(p.19 下段参照)。

○学校生活・各教科等

キャリア教育を進めるにあたり、各教科等で新たに基礎的・汎用的能力を育成するための単元や題材を設定し、授業を行わなければならないということではありません。しかし、キャリア教育は教育活動全体を通じて行うものであり、これまでの教育実践をキャリア教育の視点を持って改善していくことが必要です。今まで行ってきた様々な活動の中には、キャリア教育につながる活動がたくさんあります。日常的に教職員がキャリア教育の視点を持ち、指導することが大切となります。

また、一人ひとりの児童生徒が自分のよさや可能性、成長に気付けるように、各教科等や行事、学校生活全般における振り返り活動を充実させることが重要となります。

学校生活……係活動、日直、清掃、給食当番、朝の会・帰りの会、異年齢集団活動、飼育・栽培活動など



横の連携

○家庭との連携

家庭教育の在り方や、働くことに対する保護者の考え方や態度は、児童生徒の人格形成や心身の発達に大きな影響を及ぼします。つまり、キャリア教育の充実にあたっては、保護者にキャリア教育についての理解を得ることが重要となります。

学習参観や保護者会、学校便り、HPなどを通して、学校のキャリア教育の方針や指導内容について家庭の理解を深めるよう工夫し、支援者として協力いただけるようにします。

○地域との連携

地域の中で活動したり、地域の方々と交流したりする中で、他者の多様な考えや立場を理解することができます。地域の方々との温かな関わりの中で、一人ひとりが認められ、自信を持ち、自己肯定感を高めることができます。

また、生涯学習の観点から、キャリア教育の推進を通し、児童生徒と地域をつなぐことも大切です。地域と連携することで、児童生徒の地域への愛着の深まりや、地域が一体となって児童生徒を育てようとする機運の醸成にもつながります。

○産業界との連携（職業体験学習）

様々な企業や学校を取り巻く地域の人など、本市の資産を生かし、本物と出会い直接体験することを通して、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を高め、多様な生き方や進路・職業などについての視野を広げます。実体験の中で様々な人々と関わることで、コミュニケーション能力が育まれたり、課題の解決策を探究するための知識・能力・態度などを身に付けたりすることができます。

<キャリア・パスポートを活用した指導事例（特別活動）>

児童生徒の自己肯定感を高め、互いを認め合う学級風土をつくる学級活動（3）
～「キャリア・パスポート」を活用した学習について～

各学期や年間の振り返りは、学級活動（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」ア「現在や将来に希望や目標を持って生きる意欲や態度の育成」の内容で実施します。この際、「キャリア・パスポート」を活用することで、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、互いを認め合う学級風土づくりにつながります。

1 題材 「前期の振り返りをしよう」

2 本時のねらい

前期の振り返りを通して、自分の頑張りがよさに気付くとともに、後期への希望や目標を持ち学校生活を送ることができるようにする。



3 本時の展開

	児童生徒の活動	指導上の留意点	目指す児童生徒の姿と評価の方法	資料
導入【つかむ】	1 前期の行事、学習、生活などについて振り返ることに意欲を持つ。	・前期に児童生徒の頑張りがわかる資料（映像）などを準備し、活動への意欲をもてるようにする。		資料など（映像）
展開①【かぐる】	2 前期の自分を振り返り、頑張ったことや成長したことを考え、「キャリア・パスポート」に記入する。	・前期はじめに記入した「キャリア・パスポート」を振り返る際に、児童（生徒）の頑張りを価値づけるようにする。	・よりよく生きていくために、自分のよさや可能性に気付き、今できることに努力して取り組むことが大切であることを理解している。（知・技）	「キャリア・パスポート」
展開②【見つける】	3 班の友達と互いに頑張ったことや成長したことを話し合う。	・友達の意見を聞く場合は、共感的に聞くように留意する。 ・友達の頑張ったことや成長したと思うこと、よさなどを伝えるように留意する。		
終末【決める】	4 学年末までになりたい自分に近づくために、頑張りたいことや目標を決め、「キャリア・パスポート」に記入する。	・一人ひとりが意思決定できるように具体例を挙げる。 ・目標に向けて前向きに努力できるように励ます。	・なりたい自分に向けて自分のめあてを意思決定することができる。（思・判・表）	

2 発達段階ごとのキャリア教育

○小学校段階

低学年においては、「**学校生活への適応**」がキャリア発達の主たる課題です。キャリア発達に即したねらいの例として、「自分の好きなこと、得意なこと、できることを増やし、様々な活動への興味・関心を高めながら意欲と自信を持って活動できるようにすること」が挙げられます。

中学年においては、「**友達づくり、集団の結束力づくり**」が主たる発達課題となり、ねらいの例として、「友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分のよさや役割を自覚することができるようにすること」が挙げられます。

高学年においては、「**集団の中での役割の自覚、中学校生活に向けた心の準備**」が主たる発達課題となり、ねらいの例として、「苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにすること」が挙げられます。



【小学校段階において育成することが期待される基礎的・汎用的能力の例】

	低学年	中学年	高学年
人間関係形成・社会形成能力の例	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや返事をする。 ・友達と仲よく遊び、助け合う。 ・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と友達のよいところを認め、励まし合う。 ・互いの役割や役割分担の必要性がわかる。 ・自分の生活を支えている人に感謝する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを、場に応じた態度で適切に伝えることができる。 ・異年齢集団の活動に進んで参画し、役割と責任を果たす。 ・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さがわかる。
自己理解・自己管理能力の例	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなもの、大切なものを持つ。 ・決められた時間や、生活のきまりを守る。 ・自分のことは自分で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところを見付ける。 ・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ・仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所に気付き、自分らしさを発揮する。 ・自分の仕事に対して責任を持つ。 ・自分自身の将来について考えることができる。
課題対応能力の例	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の準備や片付けをする。 ・めあてや計画を立てて活動する。 ・わからないことがあったら自分から質問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見や気持ちをわかりやすく表現する。 ・計画づくりの必要性に気付き、作業の手順がわかる。 ・学校生活をよりよくするために話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に必要な情報を探す。 ・見付けた課題を自分の力で解決しようとする。 ・学級活動をよりよいものにするために解決方法を話し合う。
キャリアプランニング能力の例	<ul style="list-style-type: none"> ・係や当番の活動に取り組み、その大切さがわかる。 ・身近で働く人々の様子がわかり、興味・関心を持つ。 ・自分の成長に気付くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係活動や当番活動に積極的に関わり、働くことの楽しさがわかる。 ・いろいろな職業や生き方がわかる。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・職場見学などを通し、働くことの大切さや苦勞がわかる。 ・身近な産業・職業の様子やその変化がわかる。 ・学習したことや体験したこと、生活や職業との関連を考える。

各学校においては、上記の表を参考にしつつ、それぞれの実態や課題を踏まえて育成すべき具体的な力を設定することが必要です。

【参考：文部科学省「小学校キャリア教育の手引き」（令和4年3月）】

○中学校段階

中学校段階では、多くの発達課題が挙げられますが、その中でも特に、「肯定的自己理解と自己有用感の獲得」「興味・関心に基づく勤労観・職業観の形成」「進路計画の立案と暫定的選択」「生き方や進路に関する現実的探索」が重要な発達課題となります。

また、社会における自らの役割や将来の生き方・働き方などについてしっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度を、体験を通じてその重要性について理解を深めさせながら育成し、進路の選択・決定へと導くことが重要です。そのためには、中学校の各学年段階における発達課題を明確にして、それらを解決できるような取組を計画的に行っていくことが必要となります。

第1学年のキャリア発達の主な特徴

- ① 自分のよさや個性がわかる。
- ② 自己と他者の違いに気付き、尊重しようとする反面、自己否定などの悩みが生じる。
- ③ 集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。
- ④ 将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。
- ⑤ 学習の過程を振り返り、次の選択場面に生かそうとする。
- ⑥ 将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱いている。

第2学年のキャリア発達の主な特徴

- ① 自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。
- ② 社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的に捉えるようになる。
- ③ 体験などを通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いがわかる。
- ④ よりよい生活や学習、進路や生き方などを目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。
- ⑤ 将来への夢を達成するための現実の問題に直面し、模索する。

第3学年のキャリア発達の主な特徴

- ① 自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めようとする。
- ② 社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。
- ③ 係・委員会活動や職場体験などで得たことを、以後の学習や選択に生かそうとする。
- ④ 課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。
- ⑤ 将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。

<キャリア・パスポートの活用とキャリア・カウンセリングについて>

学校におけるキャリア・カウンセリングは、一人ひとりの児童生徒が、学校生活における様々な体験を前向きに受け止め、日々の生活で遭遇する課題や問題を積極的・建設的に解決していくことを通して、問題対処の力や態度を発達させ、自立的に生きていけるように支援することを目指すものです。

そのためには教職員が一人ひとりの課題をしっかりと受け止めて、生徒が安心して自分の悩みを表現したり、質問したりできるような関係を構築する必要があります。

「キャリア・パスポート」を活用することで、教員は目の前の生徒が、これまでどのような課題を持ち、対処してきたのかを知ることができ、カウンセリングを効果的に進めるために有効です。また、中学生のときのキャリア意識を「キャリア・パスポート」に記しておくことが、その後の進路先における課題の解決につながっていきます。



【参考：文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（令和5年3月）】

○高等学校段階

高等学校段階においては、「自己理解の深化と自己受容」「選択基準としての勤労観、職業観の確立」「将来設計の立案と社会的移行の準備」「進路の現実の吟味と試行的参加」が特に重要な課題となります。キャリア教育の視点からは、特に学科や卒業後の進路を問わず、現実的に社会・職業の理解を深めることや、自分が将来どのように社会に参画していくかを考える教育活動などを行うため、これらを指導計画に位置付けて実施することが必要です。

その際、キャリア教育を「新たな課題」として理解するのではなく、これまでの蓄積を生かすことが重要であり、各取組をキャリア教育の視点から捉え直すことで、更なる向上を図る機会とすることができます。

高等学校段階におけるキャリア発達の特徴の例

入学から在学期間半ば頃まで	在学期間半ば頃から卒業を間近にする頃まで
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する。 ・新たな環境の中で自らの役割や能力・適性を自覚し、積極的に役割を果たす。 ・学習活動を通して自らの勤労観、職業観について価値観形成を図る。 ・様々な情報を収集し、それに基づいて自分の将来について暫定的に決定する。 ・進路希望を実現するための諸条件や課題を理解し、検討する。 ・将来設計を立案し、今取り組むべき学習や活動を理解し実行に移す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の価値観や個性を理解し、自分との差異を見つめつつ受容する。 ・卒業後の進路について多面的・多角的に情報を集め、検討する。 ・自分の能力・適性を的確に判断し、自らの将来設計に基づいて、高校卒業後の進路について決定する。 ・進路実現のために今取り組むべき課題は何かを考え、実行に移す。 ・理想と現実との葛藤や経験などを通し、様々な困惑を克服するスキルを身に付ける。



<キャリア・パスポートについて>

キャリア教育のねらいである「生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通す」ためにも、また、自らがこれまでどれほど「社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力」を身に付けてきたのかを把握し、今後の課題を認識するためにも、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の在り方生き方を考えたりする活動」は必要不可欠です。そのような活動を記録し蓄積するものが「キャリア・パスポート」であり、「生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択する」力の育成にもつながります。

キャリア・パスポートは、新しい学習指導要領が突然もたらした新たな教育活動ではなく、これまで日本の学校教育において長年にわたって実践・活用されてきた「最終学年としてこの1年の計画を立てよう」「1学期を振り返って」「私が就業体験を通して学んだこと」などのワークシートと、軌を一にするものです。その一方で、小学校・中学校・高等学校等の学年・校種間で引き継がれながら活用される点は、これまでとは異なるものになります。

キャリア・パスポートを用いて、大人（家族や教職員、地域住民など）が対話的に関わること（キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリング）は、生徒理解を深めたり、一人ひとりのキャリア形成を支援したりするうえでも重要です。

【参考：文部科学省「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（令和5年3月）】

参考資料

1 キャリア教育とは

○キャリア教育の定義*1

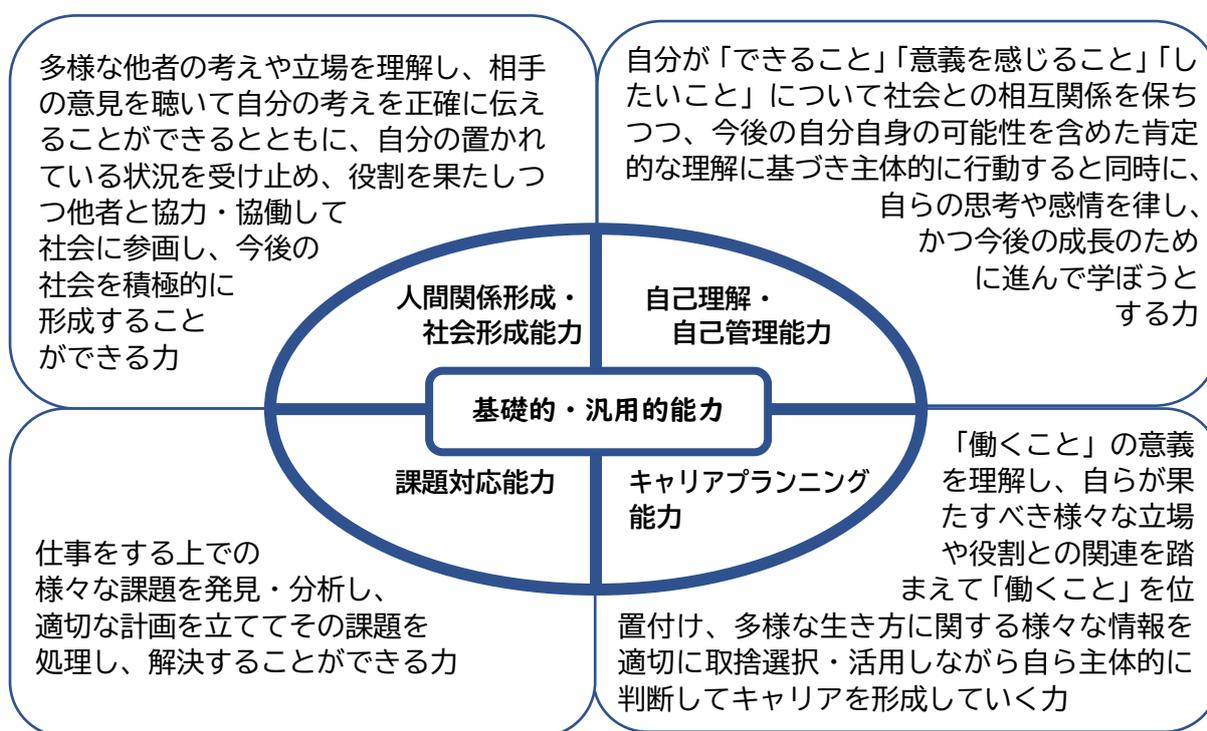
一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育

【キャリア発達】

社会の中で、自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくこと

○キャリア教育を通して育成すべき「基礎的・汎用的能力」*2

キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力は、社会的自立を図る上で必要な能力であり、発達段階を追って育成されるもので、以下の4つの能力で構成されています。



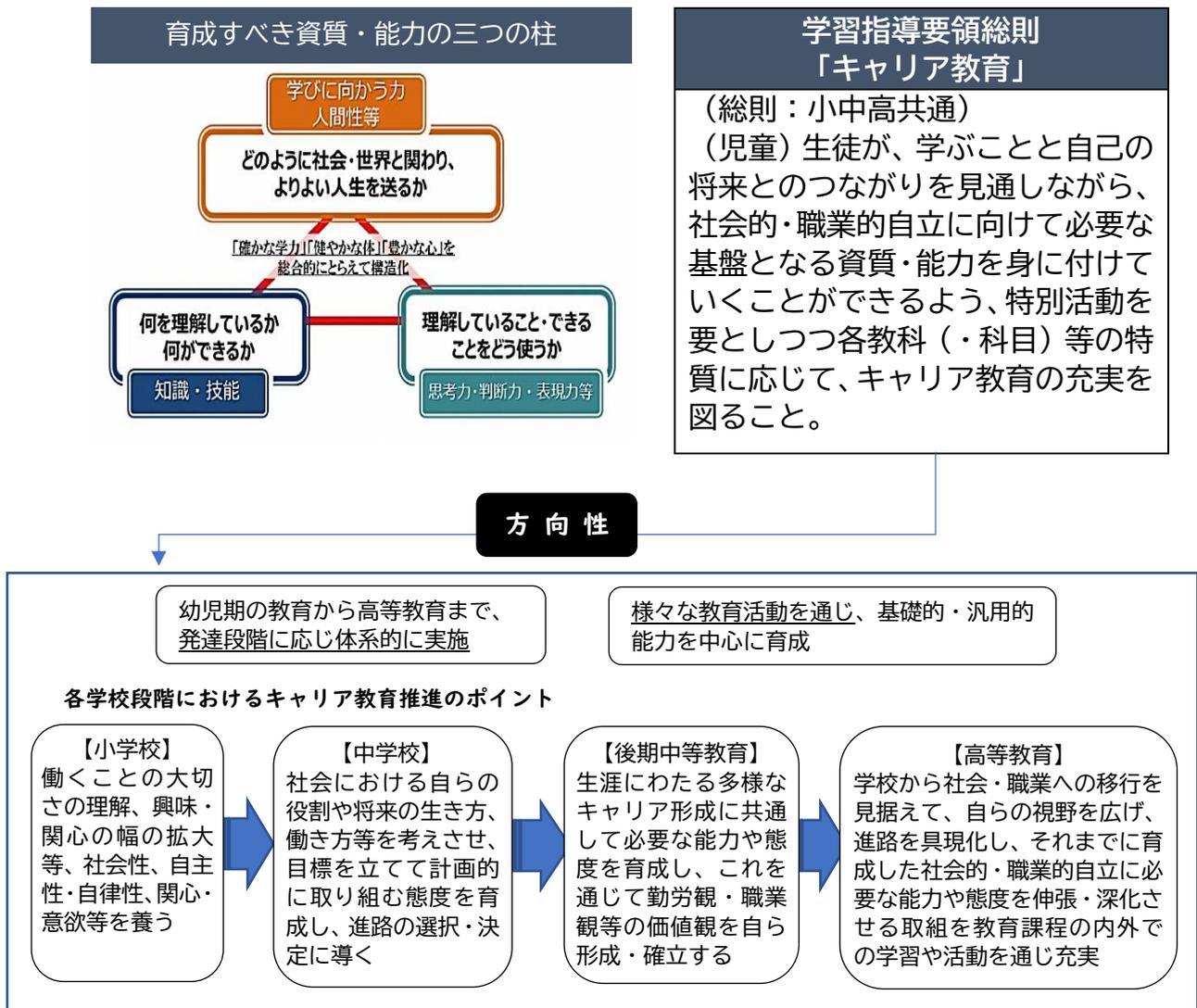
*1、2 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成 23 年1月）

○学習指導要領で示すキャリア教育

平成 28 年中教審答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、キャリア教育について、以下のような内容が取り上げられました。

- ・ 職場体験活動のみをもってキャリア教育を行ったものとしているのではないか
- ・ 社会への接続を考慮せず、次の学校段階への進学のみを見据えた指導を行っているのではないか
- ・ 職業を通じて未来の社会を創り上げていくという視点に乏しく、特定の既存組織のこれまでの在り方を前提に指導が行われているのではないか
- ・ 将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されていたりするのではないか

これらを受け、学習指導要領で示すキャリア教育は以下のように整理されました。



文部科学省「キャリア教育の推進 (https://www.mext.go.jp/apollon/mod/pdf/mext_propulsion_20180223.pdf)」より

2 キャリア教育の位置付け

(1) 千葉市の教育に関する大綱（対象期間：令和4年度～令和7年度）

○キャリア教育の充実

- ・子どもたち一人ひとりが夢や目標を持ち、社会的・職業的自立に向けて必要な能力や態度を身に付けることができるよう、職業体験学習や進路指導体制の充実、起業家教育など、産学官が連携して小中学校におけるキャリア教育を推進し、千葉市を支える人材の育成にもつなげていきます。
- ・実社会に出た後でも、自ら知識や技術を身に付けキャリアアップを図る環境を整えることで、生涯を通じたキャリア教育を推進するとともに、地域や社会で活躍できる環境づくりを推進します。

(2) 第3次千葉市学校教育推進計画（計画期間：令和5年度～令和14年度）

目指すべき子どもの姿

夢と思いやりの心を持ち、未来を拓く子ども

教育目標

自ら考え、自ら学び、自ら行動できる力をはぐくむ

各論

2 豊かな心の育成

～思いやりの心の育成と一人ひとりの夢の実現～

【施策の方針2-3 夢や目標に向けた学びの実現】

子どもたちの興味・関心を引き出し、一人ひとりが夢や目標を持つことができるような学びを展開していきます。また、一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる基礎的・汎用的能力を着実に身に付けさせ、キャリア発達を促すとともに、様々な困難を乗り越えることができるよう支援します。

(3) 第6次千葉市生涯学習推進計画（計画期間：令和5年度～令和14年度）

■計画目標■

新しい時代の市民の学びを支え、生活や地域・社会に生かし、多様な主体と連携・協働を図り持続可能な社会を形成できる環境をつくる

～一人ひとりが 学びを通して成長し みんなが輝くまち 千葉市～

各論

2 多様な学習機会の充実

【基本施策2-3 現代課題に対応する学習機会の提供】

急速に変化する社会において、新たな時代の課題に対応し、生命や暮らしを守る学習や、持続可能なコミュニティづくりにつながる学習の機会を提供します。

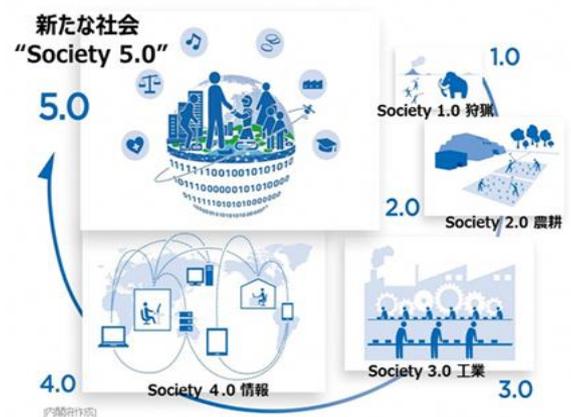
3 これからの社会

(1) 子どもが生きるこれからの社会

狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会が Society 5.0 です。

IoT (Internet of Things) で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すとされ、課題や困難の克服が目指されます。

人工知能 (AI) により、必要な情報が必要な時に提供されるようになります。



内閣府 HP 「Society5.0とは (https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html)」より

(2) 技術革新に伴う職業の変化

コンピューターの技術革新により IoT が進む中、ロボットなどの機械が人間に代わって仕事をする「仕事の自動化」が一層進みます。

- ◆ 「2011年に米国の小学校に入学した子どもたちの65%は大学卒業後、今は存在していない職業に就く」
～キャシー・デビットソン氏 (ニューヨーク市立大学大学院センター教授)～
- ◆ 「今後10～20年で、日本の労働人口の49%がAIやロボット等で代替可能に」
～(株)野村総合研究所(マイケルA.オズボーン准教授らとの共同研究)～
- ◆ 「日本では、2007年に生まれた子どもの半数が107歳より長く生きる」
～Human Mortality Database、U.C. Berkeley(USA)and Max Planck Institute for Demographic Research(Germany)～

産業が変わって働き方が変われば、「働くこと」の意義も変わります。また、社会の変化により必要な能力・スキルも変わるため、常に社会の情報やスキルを新しいものにするよう、「自ら学ぶ力」が重要になります。

4 これまでの本市のキャリア教育

(1) キャリア教育推進連携会議

平成 28 年 3 月・6 月・8 月・12 月実施

内容：企業および学校におけるキャリア教育や人材育成に係る取組の情報共有

平成 29 年 10 月・平成 30 年 3 月・10 月実施

内容：本市における新しい取組についての協議

平成 31 年 2 月・令和元年 11 月・令和 2 年 2 月実施

内容：職業体験学習の見直しと推進に向けた方策についての協議

令和 2 年 11 月・令和 3 年 2 月実施

内容：今後必要となる資質能力を、各段階で高めていくための取組についての協議

令和 3 年 11 月・令和 4 年 2 月実施

内容：職業体験学習の取組を推進するため、実施上の課題解決に向けた協議

令和 4 年 11 月・令和 5 年 2 月・8 月・10 月・11 月実施

内容：「千葉市のキャリア教育新基本方針」の内容についての協議

(2) 「進路選択の手引」発行（昭和 57 年 9 月）

進路選択の手引「ハロー マイ フューチャー」へ改称（平成 5 年度）

(3) 進路学習ノート「わたしの夢」発行（平成 7 年 3 月）

キャリア教育ノート「わたしの夢」へ改称（令和 2 年度）

(4) 「キャリア教育主任研修会」の開催（平成 29 年 7 月～）

(5) 「キャリア教育ガイドブック（改訂版）」の発行（平成 30 年 3 月）

「キャリア教育ガイドブック（H19 年度版）」を改訂し、本市教職員向けに発行した。

(6) 技術職・技能職の魅力啓発冊子「STYLES（スタイルズ）」の発行（平成 31 年 3 月）

(7) 「千葉市の専門高校ガイド」の発行（令和元年 5 月）

(8) 「キャリア・パスポート」全校実施（令和 2 年 4 月～）

(9) 「キャリアプランニング能力育成のための教員用キャリア教育ガイドブック」の発行

【東京情報大学との共同研究】（令和 3 年 3 月）

(10) 技術職・技能職の魅力啓発動画「STYLES Movie」の公開（令和 3 年 4 月）

(11) ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム「Seedlings of Chiba

（シードリングス・オブ・チバ）」の設立（令和 3 年 12 月）

(12) 職業体験学習の推進

市立学校において、職場体験と出前授業を組み合わせ「職業体験学習」として実施

5 キャリア教育に関する研修や教材、取組等の補足

○教職員の理解・指導力向上のための研修（市教委主催）

- ・キャリア教育主任研修会
- ・次世代リーダー研修
- ・長期研修
- ・中堅教諭等資質向上研修における社会体験研修
- ・キャリア教育指導者養成研修
- ・千葉市教育研究会キャリア教育部会連携講座 など
- ・研究指定校による実践
- ・現場研究員
- ・21世紀を拓く課題研修

○キャリア教育ノート「わたしの夢」

中学校1、2年生の生徒が、自分らしい生き方を考えたり、学ぶ意義や自分自身を見つめたりする活動を通し、将来の夢や希望、目標をもてるよう活用していきます。また、今を生きる生徒の実態や社会の様子を取り入れ、生徒の主体的な進路の選択や将来設計を行うため、テキストの改訂を毎年行います。

配付対象：千葉市立中学校（1年生）



○進路選択の手引「ハロー マイ フューチャー」

「将来の生き方を考える進路」を生徒に定着させ、進路適性の吟味と進路情報の活用、主体的な進路の選択と将来設計などを行うため活用していきます。特に進路選択にあたっての基本的な考え方や決定までの最新の手順などが理解できるように、テキストの改訂を毎年行います。

配付対象：千葉市立中学校（3年生）

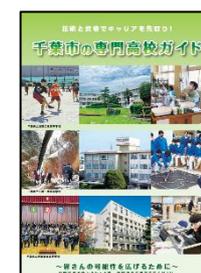


○「千葉市の専門高校ガイド」の活用

自己の進路・将来を主体的に考えることができる力や社会的・職業的自立およびキャリア発達を促したり、専門高校への理解を深め、進路選択の幅を広げたりするために活用しています。

また、専門高校の魅力を紹介するため、最新の情報を発信できるように毎年刷新し、対象生徒に配付します。

配付対象：千葉市立中学校（1・2年生）



○職業体験学習の充実

児童生徒が夢を持つことの大切さや今学んでいる意義などを考えることができるようにするために、企業や各種団体、地域、家庭等と連携を図り、職場体験(*1)や出前授業(*2)をはじめとした職業体験学習を実施します。

- *1 職場体験…主に、児童生徒が地域の企業などを訪問し、体験活動などを行うこと
- *2 出前授業…企業、団体などの方が講師として学校を訪問し、講話などを行うこと

職場体験に加え、出前授業(体験学習含む)といった勤労観・職業観を高める学習全般を、千葉県教育委員会では「職業体験学習」と定義しています。

○技術職・技能職の魅力啓発冊子・動画「STYLES (スタイルズ)」の活用

求職者が事務職に偏り、技術職・技能職(*)の人材不足が著しい「雇用のミスマッチ」解消に向けた中長期的対応として、中学生に技術職・技能職の魅力伝え、将来の就労先の選択肢として認識できるよう、冊子や動画を作成し、生徒及びその保護者に配付・周知します。

- *「技術職・技能職」とは、専門的な技術を持ち、それを活かして働く仕事のこと。技術者、エンジニア、職人など。

冊子配付対象：千葉市立中学校2年生

動画閲覧対象：小学生・中学生・高校生・保護者

冊子は「経済農政局経済部雇用推進課」の全庁フォルダ、
動画はHPから閲覧できます。

動画は
こちらから



○ちばアントレプレナーシップ教育コンソーシアム Seedlings of Chiba

激しく変化する社会を生きる子どもが、変化に柔軟に対応し、自らの力で社会課題を発見し、新しい仕事を創り出しながら成長できる地域社会を実現するため、産学官によるコンソーシアムが、西千葉子ども起業塾などのアントレプレナーシップ教育プログラムを提供し、未来の千葉の産業を担う子どもの成長を支えます。

対象：小学生・中学生・高校生

○夏休みおしごと感動体験ワクワクワークデー

市内商業施設や企業・大学等との協働により、楽しみながら多様な仕事を体験し、自分の将来や就きたい仕事について考える機会を提供します。

対象：小学生

○幕張新都心ビジネススクール

神田外語大学や、市内に拠点を置きながら活躍する企業と連携し、ビジネスの楽しさや先端技術を学ぶことにより、将来の進路選択や就職活動に繋がる気付きを発見する機会を創出します。

対象：高校生

「未来を拓くキャリア教育」 作成協力者

※所属・役職は当時（五十音順、敬称略）

令和4・5年度キャリア教育推進連携（ワーキンググループ）会議委員

（座長） 前千葉敬愛短期大学特任准教授 反町 京子（R4・R5）

ポリテクセンター千葉	所長	阿部 貴彦（R4）
千葉市立都小学校	教頭	安齋 直美（R4）
NPO法人企業教育研究会事務局		市野 敬介（R4・R5）
千葉市立幕張東小学校	教諭	稲生 明尚（R5）
株式会社ウェザーニューズ 予報センター長		宇野沢 達也（R4・R5）
千葉市立院内小学校	教諭	小幡 智広（R4）
千葉市立泉谷中学校	校長	菊地 友樹（R5）
千葉市立新宿小学校	教頭	君島 啓徳（R5）
千葉市立花見川中学校	教諭	菰田 敏史（R5）
イオン株式会社人材育成部	部長	近藤 良策（R4・R5）
千葉市立千葉高等学校	教諭	坂本 敦史（R4・R5）
千葉市立幸町小学校	教諭	佐藤 圭（R4）
千葉大学教育学部 グランドフェロー		真田 清貴（R4・R5）
千葉労働局職業安定部職業安定課		鎮目 美紗子（R4・R5）
千葉市立花園中学校	教諭	島田 暁史（R4）
千葉市立越智小学校	校長	末廣 啓子（R5）
千葉市立誉田中学校	教頭	高橋 泰雄（R4）
敬愛大学 キャリアセンター長		中山 雄二（R4・R5）
千葉市立幕張東小学校	教諭	藤咲 貴久（R5）
千葉市立葛城中学校	教頭	丸山 武（R5）
ポリテクセンター千葉	次長	村井 公仁（R5）
千葉市立打瀬中学校	校長	屋代 健治（R4）
千葉市立高洲第三小学校	校長	山越 正人（R4）
JFEスチール株式会社 総務部総務室長		和崎 正二（R4・R5）

表紙作成、図・表のデザイン

千葉大学工学部 志賀 一華

令和4・5年度 キャリア教育推進連携会議事務局

教育委員会事務局 教育改革推進課
教育委員会事務局 教育センター
経済農政局 雇用推進課



千葉市キャリア教育の基本方針
未来を拓くキャリア教育

編集・発行

教育委員会事務局 教育改革推進課
経済農政局 雇用推進課
